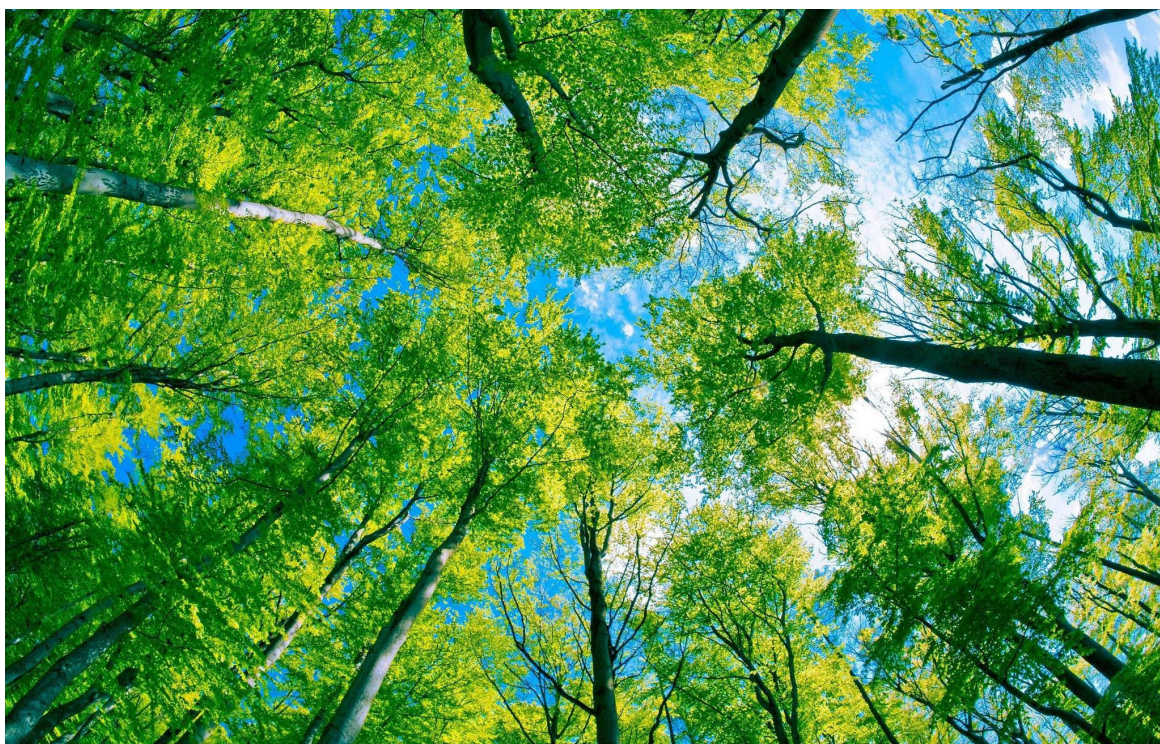


No.EA21-10-007

2025年1月30日

環境経営レポート

〈2023年度実績〉期間 2023/8月～2024/7月



有限会社 宗長商会

ご挨拶

当社は1930年に創業し、有限会社としては1956年に設立されました。
このレポートは、2021年度再設定した中期計画の2年目の活動内容を報告いたします。

当社はまだまだ若輩企業ですが、自社業務において環境保全は最優先と位置づけ、
全社一丸となって環境保全活動に取り組んでいきますので、今後ご指導ご鞭撻を
よろしくお願いいたします。



発行日 2025年1月30日
有限会社 宗長商会
代表取締役社長 宗川正寛

目次

I 環境方針	P-3
II トピックス	P-4
III 事業活動	P-5
IV 組織(推進体制)	P-6
V 環境目標と実績	P-7
VI 環境活動の取り組み計画と評価	P-8
VII 環境関連法規制の遵守状況	P-9
VIII EA21環境保全活動推移グラフ	P-10
IX 代表者による全体評価と見直しの結果	P-11

環境経営方針

<基本理念>

有限会社 宗長商会は、社是である「敬天人愛 輪廻転生」を礎に、産業廃棄物収集運搬業として、運搬車両のエコドライブ、解体作業におけるリサイクル化等の活動を通し、環境問題の重要性を認識し、環境保全活動に取り組み、地域・社会に貢献していく。

<活動指針>

- 1、環境方針の目的を達成するため、環境目標及び環境活動計画 を策定し実践いたします。
- 2、収集運搬業務に係る環境関連の法令、条例等の規制事項遵守を全員で徹底いたします。
- 3、省エネ活動は当社の収集運搬業務で重要な要素です、燃費改善に努めCO2削減に努めます。
- 4、環境保全活動結果は定期的に評価を行い、必要に応じて見直しを 行い継続的改善を図ります。
- 5、産業廃棄物の再資源化を図りリサイクル化に努めます。

代表取締役社長

宗川 正寛

※ 「敬天人愛」とは

本来は「敬天愛人」であり、この言葉は、西郷隆盛が好んでよく使い、揮毫した言葉です。

人それぞれには、天から与えられた「天命」というものがあり、それに従って、人は生きているのである。だからこそ、人はまず天を敬うことを目的とするべきである。

天というものは、「仁愛」すなわち人々を平等に、かつやさしく愛してくれるものであるので、「天命」というものを自覚するのであれば、天が我々を愛してくれるように、人は自らも他人に対して、天と同じように、「慈愛」を持って接することが何よりも必要である。「敬天愛人」を「敬天人愛」としたのは、現代の人により伝わりやすくなるのではないかと先代社長である 宗川忠男が考えた造語です。



※ 「輪廻転生」とは

「輪廻転生」仏教用語ですが、一般的な解釈の通りです。

人間に限らず、万物は天命により生まれ変わります。

※ 「敬天人愛 輪廻転生」

人は他人に対しても自然に対しても尊敬の心を常に持ち、愛情をもって接しなさい。

再生（リサイクル）のお手伝いを出来る我々の仕事に対し感謝の気持ちを持ちなさい。

そして誇りに思えるような行いをしなさい。

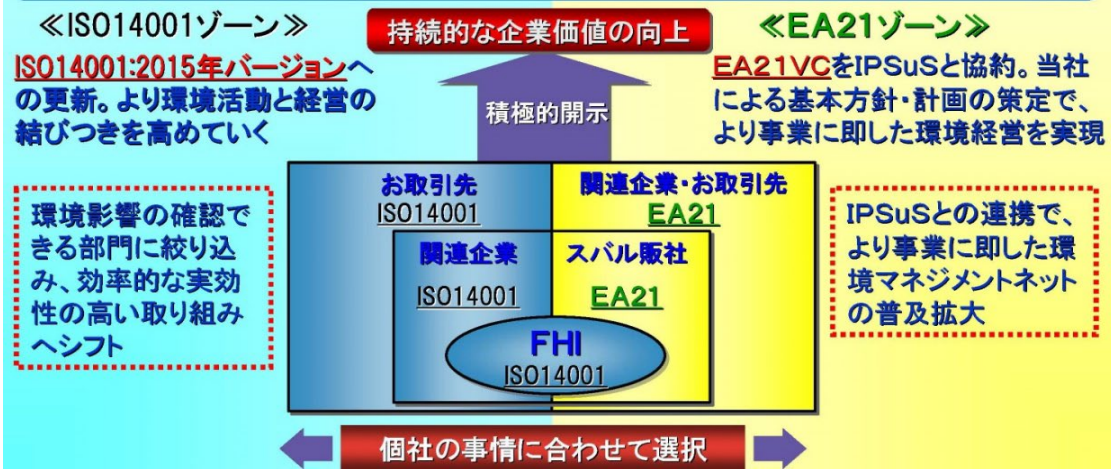
先代社長(現会長) 宗川忠男がこの言葉に込めた思いです。

発行日 2025年1月30日

<トピックス>

SUBARU・バリューチェーンを利用した環境マネジメントツールを目指す

■ISO14001+EA21併用による実効性の高い環境経営を目指す



弊社はスバルグループの仲間と一緒にEMS活動に取り組んでいます。

スバルグループ全体でエコアクション21を通じ、環境に取り組んでいる姿勢をお客様に見せることで、スバルブランドを際立たせることができると強く主張されております。

弊社もスバルグループ企業として、今後もエコアクション21を通じ環境活動に取り組んで参りたいと思います。



水洗トイレ設置
顧客サービス向上と、従業員がより快適に働けるように設置しました。



環境管理事務局
環境管理事務室作りしました。今後よりEA21に取り組めるように励みます。



計量証明事業者認定
計量証明事業者として群馬県知事より認可を受けております。40tトラックスケールにて計量。計量証明は公的証明書として認可されます。



緊急訓練
初期消火訓練
外部から指導員を招き、新入社員に初期消火訓練を実施。



独自の技術①
夾雑物減容熱分解装置の研究開発を進めてまいります。プラごみの環境汚染問題を解決したいという思いで研究室を設け、取り組んでいます。

独自の技術②
試行錯誤を重ねて、最適化した定量供給機の導入。努めて簡素なつくりを目指しました。コロナ下での部品供給不足が危機意識を高めてくれました。



独自の技術③
環境機器の開発を複数の企業と共同で行っております。



II、事業活動

1) 事業者および代表者

事業者名 有限会社 宗長商会
 代表者名 代表取締役社長 宗川正寛

2) 環境管理責任者及び担当連絡者 宗川正寛

3) 所在地 群馬県前橋市下大島町547番地
 電話 027-266-1465
 FAX 027-266-1499
 e-mail ukj865@outlook.jp

4) 事業内容

産業廃棄物収集運搬業

群馬県	許 可	1000019511
	許可年月日	令和6年7月1日
	許可の有効年月日	令和11年6月30日

事業の範囲

- (1) 事業の区分 収集、運搬
- (2) 売上高区分：A：5億円未満
- (3) 産業廃棄物の種類(積替え 保管を除く)
 汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、
 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類

一般廃棄物収集運搬業

前橋市	許 可	第32号
	許可年月日	令和4年6月30日
	許可の有効年月日	令和8年6月29日

伊勢崎市	許 可	第112号
	許可年月日	令和4年5月1日
	許可の有効年月日	令和8年4月30日

5) 情報公開項目 (1)

- ・設立年月日 昭和31年2月8日
- ・資本金 600万円
- ・敷地面積 6,270㎡

6) 情報公開項目 (2)

- ・従業員数 5名
- ・施設等の状況
 - ・中型トラック 4台
 - ・油圧ショベル(マグネット仕様) 1台
 - ・小型トラック 1台
 - ・油圧ショベル小型1台
 - ・40t台貫 1台
 - ・タイヤショベル 2台
 - ・ローリング・プレス・シャー 1台
 - ・フォークリフト 3台

・受託した収集運搬実績(2023年度)

産業廃棄物	収集運搬量(t)
廃プラスチック類	45.62
木屑	9.86
廃蓄電池	0.51
汚泥	41.50
混合廃棄物	9.82
陶磁器屑	2.51

- ・処理料金
 形状・条件により異なるため、
 その都度見積り。

7) 廃棄物処理フロー

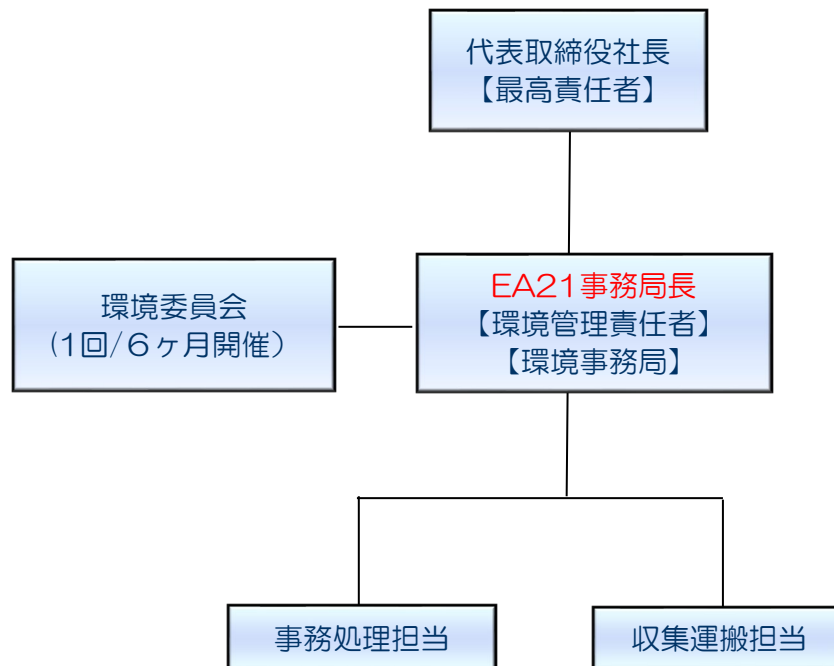
排出事業者 → 収集運搬業者 → 中間処理業者 → 運搬 → 最終処分

宗長商会



↓
再生

EA21 推進体制



職名	役割
代表取締役社長	①環境管理責任者を任命する ②環境方針を制定する ③EMS活動に必要な経営資源を準備する ④EMS活動の構築・運用に必要な情報を収集し、環境目標、EMS活動全体の見直し、是正処置を行う
EA21事務局長	①環境管理責任者として、環境委員会を統括する ②EMS活動の実績把握と社長に見直しのための情報を提供する。
環境委員会	社長以下全員参加で構成し、6ヶ月に1回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について評価・協議する。

Ⅳ 環境経営目標とその実績

2023年度活動は、2021年度再設定した中期計画の2年目の実績と中期目標を報告致します。

環境目標はEA21ガイドラインで要求されています。①二酸化炭素排出量の削減、②廃棄物の削減、③水資源投入量の削減、④化学物質の管理⑤製品サービス⑥自主活動の6項目です。

基準年度と過去6年間の実績(総量)

*但し、次年度2018年度より東京電力調整後排出係数0.496kg-CO₂/kwh

環境経営目標			単位	実績							2%	※24年度3%減	評価
				17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績			
二酸化炭素	エネルギー消費	購入電力	Kwh	12,086	12,079	11,369	12,088	12,830	13,482	14,324	11.6	×	
		ガソリン	L	1,553	1,550	1,713	1,168	1,631	1,777	1,908	17.0	×	
		軽油	L/km	0.243	0.249	0.174	0.263	0.242	0.214	0.214	-11.6	◎	
CO ₂ 排出量			kg-CO ₂	40,461	31,573	25,704	20,109	21,313	30,231	23,394	9.8	×	
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg/人	2.4	1	2.6	4.4	4.4	3.5	3.7	-	○		
水使用量	水	m ³ /人	21.5	19.3	21.6	22.2	29.6	27.2	32.3	-	○		
化学物質使用量の削減			化学物質は不使用。										
製品・サービスにおける環境性能			①顧客の要求に応える努力と産業廃棄物処理法等で改善が生じた場合は顧客と協議する。										

<2>23年度評価

1.二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量については新基準年度目標値今年度2%削減に対し、今年度実績約9.8%増となり目標未達成であった。電気設備増設及び運搬料微増が主な要因ではあるが、CO₂削減を目標としたEMS諸活動を、グループ企業の一員として模範となり、顧客満足度向上へ徹したことが、取引の安定につながっていると思います。結果的に排出量が増加傾向にあるが、今後も二酸化炭素削減に寄与できるよう、全社的に取り組みを強化していきたいと思っております。

1) 電力消費量は新基準値の約11.6%増となり、目標未達であった。主な要因は、従業員増員に伴い休憩室でのエアコン使用頻度の上昇、それと環境機器開発実験用プラントにかかる電力消費が挙げられる。

2) ガソリン消費量は基準値に対し約17.0%増となり目標未達であった。主な要因は、業務範囲の拡大、人員の増加によるものと考えられる。

3) 軽油の消費量はキロ当たり消費量、つまり燃費であるが、11.6%減で目標達成。環境対応車の使用回数増を今後も継続することで燃費の維持・向上が図られると思う。尚、引き続きエコドライブに努めていく。

2.廃棄物排出量の削減

1) 一般廃棄物

企業から排出している、排出量は単位が小さいため、大きく数値がふれてしまうのは例年通りでは有るが、引き続き現状維持に努めていく。

3.水資源投入量の削減

1) 基準年度現状維持

一般廃棄物同様、排水量単位が小さいため、現状維持が目標であった。現状維持を続けられるよう来期も努力していく。

4.化学物質使用量の削減

化学物質は使用していません。

5.自らが提供する製品・サービスにおける環境性能の向上

顧客との良好な関係は維持できており、今後も3S活動(整理・整頓・清掃)を怠らず、様々な顧客の要望に対し、環境に配慮しながら適切に処理できるように心掛けていく。

6.その他・自主活動であります「5S」活動の定着

整理・整頓・清掃・清潔・しつけの5項目で活動いたしました。休憩室を清潔に保ったり、徐々に成果はでてきている。

又グリーン購入についても、事務用品が中心だが、2022年版に改訂されても継続していく。

V VI、環境経営計画の取組結果と評価

1. 環境活動の取組み計画と活動状況は下記の通りです。

評価方法:◎効果有り、○実施中、△検討中

No.	2023年度環境経営計画	取組み結果と評価	2024年度環境経営計画	新中期環境経営計画(1年目)
1	1. 使用電力の削減	効果評価	1. 使用電力の削減	
	①事務所の不在時、休憩時の消灯継続	◎ 不在時の節電OK。目標は十分達成されていると思う。	①事務所の不在時、休憩時の消灯継続	継続
	②作業場の節電継続	◎ 消し忘れなし、節電されている。	②作業場の節電継続	継続
	③LED化の検討継続及びエアコンを省エネタイプに買替検討	○ 事務所用エアコンを一部省エネタイプに買替	③LED化の検討継続及びエアコンを省エネタイプに買替促進	継続
	2. 軽油・ガソリン使用量削減＝継続して効率運転に努める	◎ ガソリン車、回収トラックの効率運転効果あり。	2. 軽油・ガソリン使用量削減＝継続して効率運転に努める	継続
	①車両停止時のアイドリングストップ運動の継続	◎ アイドリングストップ運動を今期も継続してきた。今後も継続する。(特に冬季時)	①車両停止時のアイドリングストップ運動の継続	継続
	②運搬車輛の燃費向上(効率運送への改善)	◎ 上記アイドリングストップ運動の継続、不必要な運転動作の軽減、運転ルートの開拓等、様々な手段を用いてきたが、燃費は非常に向上し成果は上がったと判断する。	②運搬車輛の燃費向上(効率運送への改善)継続	継続
③運搬トラックとフォークリフトの消費量(軽油)区分管理を継続	○ 個別管理を実施した。燃費の向上を図りたい。運搬トラックとフォークリフトの軽油消費量を区分し、より正確な数値の把握につとめた。	③運搬トラックとフォークリフトの消費量(軽油)区分管理を継続	継続	
2	2021年度実績維持。		2022年度実績維持。	
	①再生資源が整然と分別されていること	○ 分別管理は徹底されている。継続して努力する。	①再生資源が整然と分別されていること	継続
	②古紙リサイクル化継続	◎ 古紙は分別され、リサイクルされている。	②古紙リサイクル化継続	継続
	③コピー紙の裏紙使用継続	○ 裏紙使用も徹底されてきた。今後も継続していく。	③コピー紙の裏紙使用継続	継続
	④構内ダライ粉置場の管理	○ 5S活動と併用し、管理上大きな問題は無かった。今後も継続していく。	④構内ダライ粉置場の管理継続	継続
⑤豪雨時の廃油流出の管理(防止措置実施)	○ 多少の雨量は管理は行き届いているため問題ないが、昨今発生する集中豪雨があると、産廃付着液(油脂類)の流出が心配。	⑤豪雨時の廃油流出の管理(防止措置実施)	継続	
3	2021年度実績維持。	— 水道使用量の削減目標は、目標を上回り、達成することができた。引き続き節水に努めたい。	2022年度実績維持。	継続
	①使用量で突起量があるか使用量記録を確認	◎ データの管理は怠らずに実施中。今後も継続していく。	①使用量記録を確認を継続	継続
	②蛇口の垂れ流し防止継続	◎ 冬場の凍結防止以外は蛇口の垂れ流しは無し。	②蛇口の垂れ流し防止継続	継続
	③配管の点検及び漏えい防止	◎ 漏洩防止に努めてきた。今後も継続していく。	③配管の点検及び漏えい防止(使用量点検継続)	継続
4	化学物質使用量削減	化学物質を使用していない。	—	—
5	製品サービス	顧客からの運搬物は、顧客との情報を基に最終処理方法を含めご提案させていただいた。今後も継続していく。	顧客との情報を基に処理及び法規制について適正な方法を提案する(指導)	継続
		顧客からの依頼に確実に対応可能な収集運搬車輛の管理、車輛整備等必要な工具ステーションを更に効率的に運用できるよう改善する。	マニフェストの管理は徹底されている。	継続
6	自主活動(社内リー化)	・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の促進継続	・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の促進継続	継続



このコーナは、弊社がE A 2 1 環境マネジメントシステムを取り組んできた結果の実績をグラフ化したものです。
これらの成果は、企業の収益に大きく貢献しています。

Ⅷ、EA21環境保全活動推移グラフ（2010年～2022年度）

1、活動実績

当社のエネルギーとCO2排出量との関係。

区分	第1回認証審査	第2回認証審査	中間審査	第3回認証審査	中間審査	第4回認証審査	中間審査	第5回認証審査	中間審査	第6回認証審査	中間審査	更新審査	新中期目標基準 2021年度比(%)	活動初期 2010年度との比較(%)
エネルギー区分	2010年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度基準	2022年度	2022年度		
	使用量	使用量	使用量	使用量	使用料	使用量	使用量	使用量	使用量	使用量	使用量	使用量		
購入電力	13,035kwh	11,168kwh	9,898kwh	9,263kwh	10,718kwh	12,086kwh	12,079kwh	11,369kwh	12,088kwh	12,830kwh	13,482kwh	14,324kwh	11.6%	9.9%
軽油	0.36L/km	0.25L/km	0.24L/km	0.234L/km	0.241L/km	0.243L/km	0.246L/km	0.174L/km	0.263L/km	0.242L/km	0.214L/km	0.214L/km	-11.6%	-40.6%
ガソリン	2,536ℓ	3,400ℓ	2,143ℓ	2,219ℓ	2,222ℓ	1,553ℓ	1,550ℓ	1,713ℓ	1,168ℓ	1,631ℓ	1,777ℓ	1,907ℓ	16.9%	-24.8%
Co2発生量(kg-CO2)	28,230	37,649	34,557	36,445	38,837	40,461	31,573	25,704	20,109	21,313	30,231	23,394	9.8%	-17.1%

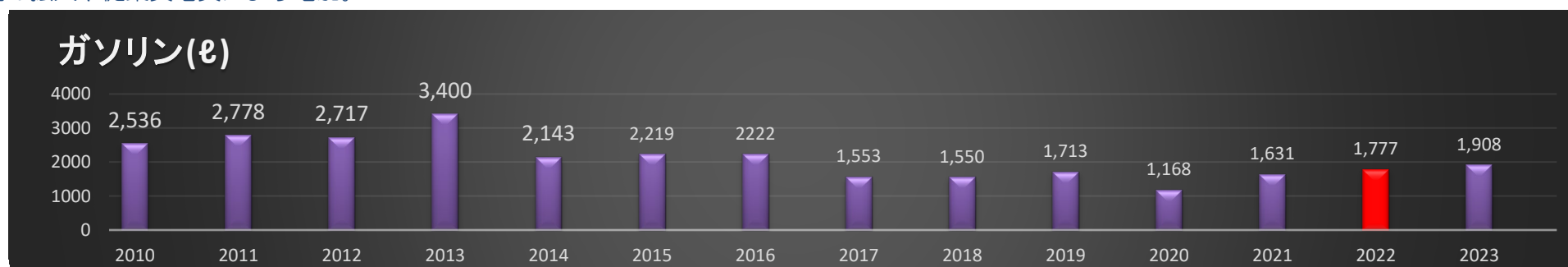
2、目で見えるCO2発生の実績推移



CO2発生源であるエネルギー消費量



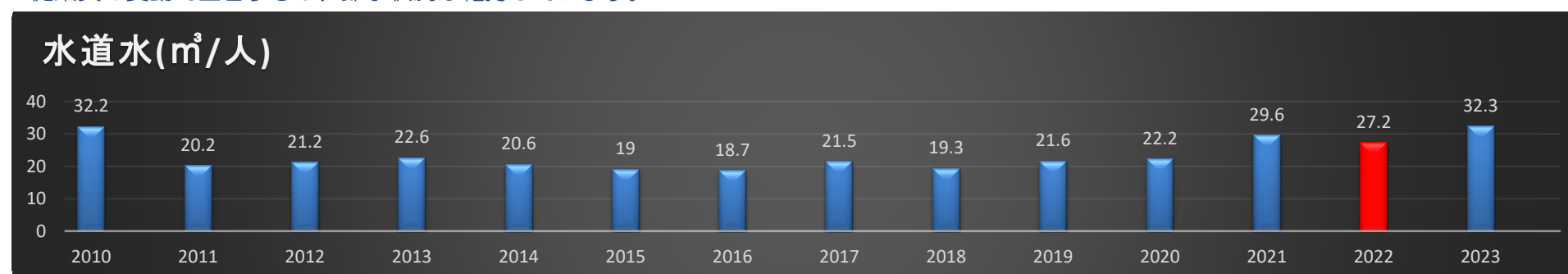
業務範囲の拡大や従業員増員により増加。



2013年、エコ仕様トラックに変更し軽油削減効果が維持されている。



大切な水 従業員の増減で左右するが、節水状況は維持しています。



EA21活動も今期で14年を終え(活動開始2009年実績記録は2010年度)環境活動に対する意識も定着化が図られた。

このレポートは、2021年度再設定した中期計画の2年目の活動内容の報告

- 1、CO2発生量は目標未達成、エコドライブの定着
 - 2、環境機器導入後、取り組みを本格化し、環境活動に根差した新たな収益体制の確立
 - 3、緊急事態への対応訓練実施、緊急用備蓄食料講習の実施
 - 4、定例ミーティングによる従業員の環境・業務への意識改革の向上
- 以上の結果報告と実績を踏まえ、社長の全体評価は、以下の通りです。

この活動を通じて学び実施してきた成果は、過去の実績推移を確認したが企業経営に十分反映されています。

今後も継続し、顧客満足度向上を目指し、顧客、地域住民から、より信頼される会社になりたい。